

めでいかすとる

Médicastre



「アキアカネ」

「認知症の人と家族への専門職としての支援」 ～前橋市初期集中支援チームの実践から見えてきたもの～に参加して

日時：平成27年8月25日(火) 18:45～

場所：鶴岡市先端研究産業支援センターレクチャーホール

在宅サービスセンター 作業療法士 佐藤 健一

去る8月25日、鶴岡メタボロームキャンパスにおいて、平成27年度第1回鶴岡市認知症対応力向上研修会（鶴岡市長寿介護課主催）が開催されました。

はじめに、鶴岡市から認知症対策について取り組みの紹介があり、その後、群馬医療福祉大学リハビリテーション学部作業療法専攻准教授の山口智晴氏より「認知症の人と家族への専門職としての支援」～前橋市初期集中支援チームの実践から見えてきたもの～を演題に講演会が行われました。医師、歯科医師、看護師、薬剤師、ケアマネジャー、作業療法士など、17職種370名程の大勢の参加があり、認知症に対する多職種の関心がこれまでに高かったのかと、大変驚きました。

山口先生は講演の中で、「認知症を正しく知ることで、認知症の人の気持ちを想像することができ、その人の生活上の不便とその具体的な対策を考え、周囲との関係性・繋がりにも配慮することが大切である。」と話されておりまし

た。何らかの原因で認知機能に問題が生じ、社会生活が困難になった状態の認知症の人を地域全体で支えるとの観点で、生活機能の障害を得意とする作業療法士の具体的な視点が随所に紹介されており、大変分かりやすく参考となる講演内容でした。

また、平成29年度末までに全市町村での機能付与が義務付けられている、認知症初期集中支援チームについては、モデル事業として平成24年度から取り組んでいる前橋市の紹介がありました。認知症が疑われる人などの早期診療に繋げる活動であり、生活行為の評価やその具体的な対処法の提案はメンバーである作業療法士の得意とする分野であり、多職種の役割も理解した上で連携の重要性を再認識することができました。

研修会終了後の懇親会では、専門職同士の役割分担はお互いのことをよく知り理解し合うことが重要であり、飲みニュケーションも大切であることが、今回もよく分かりました。



准看護学院体育大会

日時：平成27年9月25日(金) 9:00～

場所：小真木原総合体育館

9月25日(金)この日、小真木原総合体育館において、絶対に負けられない白熱した戦いが繰り広げられていた。年に1度の体育大会である。結果は1年生の圧勝で終わった。2年生は勝者に惜しみない拍手をおくり、1年生は大会開催に至るまでの2年生の活動に感謝し、学生間の交流が深まった1日となりました😊

優勝チームキャプテン (1B) 生田 未来

初めての体育大会。不安と緊張と楽しみが入り混じり、正直どうなるんだろうと思っていました。今回私は自分を変えたいと思い、キャプテンに立候補しました。体育大会の練習をするにつれて自分も意見を言えるようになり、またチームの団結力も強くなっていました。体育大会当日はみんなで声を出し合い優勝することができ本当に良かったと思います。最後までキャプテンらしいことはできませんでしたが、みんなのおかげでやりとげることができたと思います。



1年生のクラスTシャツ やる気スイッチ入りました

準優勝チームキャプテン (1A) 佐藤 恵音

私は一応リーダーという立場で積極的に競技に参加した。バレーは球技の中で最も苦手な分野だ。実際試合にはあまり貢献できなかった。むしろ失敗ばかりだったけど、私なりに頑張った。準優勝がとれるとは思っていなかったのでとてもうれしかった。

3位チームキャプテン (2B) 佐藤 千尋

実習と勉強でなかなか運動をする機会が少なく、体力の低下をひしひしと感じましたが、自分の力をだしきって競い、体を動かすことが本当に気持ち良くて楽しかったです。体育委員が1年かけて作ってきた体育大会がケガもなく、さまざまなトラブルをカバーして成功できたこともうれしかったです。

4位チームキャプテン (2A) 佐藤 明歩

準備、後片付けも1・2年生で協力して行い、学年を越えて絆を深めることができたのかなと実感しました。結果は4位でしたが、とても良い体育大会になりました。



合言葉はライジングサン！

色鉛筆画 わたしのお気に入り

前回はコレクションしている1800年代海外植物図鑑の一冊を紹介させて頂きました。古書のコレクションの一部には展示会に出品されるような物もあり、高価ではないのですが個人で持ってていいかな?と疑問なものもあります。植物図鑑をコレクションするようになったのは、興味があった植物画を自己流で描くようになりましたが、その時間がなくなったためでした。ボタニカルアートというと水彩画の作品が多く、最初に興味を持ったのは山形在住の杉崎夫妻の作品です。(杉崎夫妻を知るようになったのは禁煙繋がりです。) 水彩画では絵を描くのに準備が大変そうであり、簡単に描けそうな色鉛筆で始めました。



色鉛筆には「油性色鉛筆」と「水性色鉛筆」があります。私が使うのは油性色鉛筆です。水性色鉛筆は水に溶けるので、水彩画のような絵を描く事ができます。色鉛筆で描いたと判る絵を描くのが目的だったので、油性色鉛筆を使用しています。最初に使っていたのが、写真右の三菱鉛筆 uni 72色でした。その後、さらに多色が欲しくなり購入したのが写真左のファーバーカステル ポリクロモス油性色鉛筆120色 缶入です。他にもホルベイン、サンフォード カリスマカラー(旧プリズマカラー)、トンボの色辞典等々、色々な色鉛筆を持っていますが、使うのは主に上記の2種です。



主に描くのは植物画ではなく、食物(しょくぶつ)画です。絵が描きたくなったら行くのはスーパーです。久々に描いたのは「月山筍」ですが、これは朝日の産直グーで購入



しました。久々に描いたもので今一のできで、もう少し手を加えないといけないのですが、なかなかその時間がありません。色鉛筆のコレクションの写真とウンチクでも良かったのですが、自分の作品を出されている先生達もおりましたので、下手な色鉛筆画を出してみました。「さつまいも」は一日では完成できず、数日かかりました。「茄子」のような作品は一日掛からずに完成します。時間があれば一日中でも描けるのですが、私も老眼が入ってきて細部を描くのが難しくなってきました。今回は恥ずかしいのですが、自分で描いた色鉛筆画を出してみました。

(佐久間医院 佐久間 正幸)

YBCラジオ「ドクターアドバイスできょうも元気」ラジオ出演体験記

YBCラジオ出演記

三浦クリニック

三浦 道治

「ドクターアドバイスできょうも元気！」への出演が決まった後、番組ディレクターから収録日を7月3日(金)午後3時30分からお願いしたいと6月10日にFAXが届いた。テーマは「尿路感染症について」と伝えてあり前もってフォーマットで話す内容を送っていたので収録まで3週間もあると悠長にしていたらやはり収録前日になってしまった。慌てて原稿を書き、当日は午後休診にして原稿を書き直したりして2時に出発した。メディアタワーには約束の5分前に到着し正面玄関のある北側の駐車場に車を停めた。こんな真正面に駐車するなんて滅多にないことと思いメディアタワーを背景に車の写真を撮ってから建物に入り1階中央の受付の女性に収録に来たことを伝えた。ジーパンにシャツの服装のためかやや不審に思われた感があり緊張したがロビーで待っていると間もなくディレクターの方が来られてエレベーターに乗りラジオ第2スタジオに案内された。スタジオにはすでに松下香織アナウンサーが入っていて名刺交換と簡単な挨拶のあとディレクターと3人で打ち合わせをした。原稿は私が3人分印刷してきたものをそのまま使うことにした。世間話とか趣味の事とか他愛もない話をして私の

緊張を解いてくれているのが分かった。収録は午後4時くらいから5時半くらいで終わったが、その合間に松下アナウンサーからは自分は度胸が人一倍あり緊張することはほとんどないこと、収録番組よりも一発勝負の生放送のほうが楽だということ、山形のお勧めの居酒屋さんのことなどを聞き彼女を「兄貴」と呼びたくなるような一面を垣間見たようだった。原稿を読んでいる途中で失敗もあったがディレクターから編集で簡単に修正できることだった。収録が終わってから私の写真を3枚撮ってもらったがやはり緊張していたようで全部うつむいている写真になってしまった。メディアタワーを出ると夕方の文翔館がきれいだったので周辺を1時間くらい散歩してから帰宅した。



「ドクターアドバイスできょうも元気」の流れ

奥山皮フ科

奥山 泰裕

当日の収録記についてという事でしたが、今回の放送の依頼から収録までのこと書こうかと思います。

私のラジオの放送は8月3日～7日まででしたが、その出演依頼の電話が医師会からあったのは4月でした。当初、人見知りが激しく口下手な私としては断りたかったのですが、ラジオパーソナリティーが話を誘導してくれるということで、安心して出演することになりました。

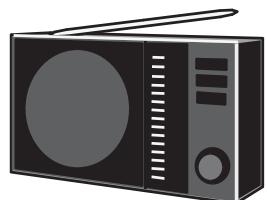
4月の終わりに正式な依頼が医師会より文書であり、5月末にYBCラジオより収録日調整と番組内容（テーマ）を検討してほしいとの連絡がきました。私は放送が夏という事もあり、『虫と皮膚炎』というテーマにしてもらうこととし、希望日程とともに返信したところ、収録日が6月10日になりました。その際に、収録内容のフォーマットも同時に送られてきました。面白いことにそのフォーマットは月曜から金曜まで5日間の放送其々のテーマと、放送時にアナウンサー側が自分に質問すること、今日の1曲の選曲、自分の人となり（座右の銘や出身地、趣味等）を記載するものでした。前もって放送内容、しゃべることがある程度分かるのは幸いで、専門分野とはいえ前もってその分野の知識を深めておけたのはよかったです。

私の収録時のアナウンサーは朝の『Zip』で山形のニュースで出演している門田和弘さんで

した。世間話をしながらこちらの緊張をほぐしてくれて、その世間話の内容から前もって連絡したフォーマット以外の放送内容を組み立てて話を振ってくれました。ただ口下手な私ですので、突然別の話を振られると対応できなく、よく分からぬ返答をしてしまいました。ですが明らかにおかしい会話になってしまった場合は、編集、もしくはとり直しをしてくれます。

我が家にはラジオがありませんでしたが、この放送を機にラジオを購入・拝聴し、アナウンサーの滑舌のよさを尊敬するとともに、自分の声のこもり具合を思い知りました。

今回ラジオの収録スタジオという非日常な場で、面白く貴重な経験になったと思いますし、アナウンサーと言う職業がはきはきと聞き取りやすい話口で会話をコントロールしてくれという事はとても勉強になりました。番組収録自体はある程度内容が分かっていますし、話を誘導してくれるので気楽に臨めると思います。ですが、もう一度と言われたら口下手な私としては、ちょっと遠慮させて頂きたいなと思いました。



私のYBCラジオ放送収録と、 思いもかけなかった今野拓先生との繋がり

鶴岡市立湯田川温泉リハビリテーション病院

武田 憲夫

YBCラジオ放送「ドクターアドバイスで今日も元気」に出演の話があり、医師会会員が交代で行っているので、そろそろ引き受けて欲しい、と言う雰囲気の依頼でした。日常の仕事に追われているのにと躊躇しましたが、それはどの方も同じで、この機会に、ささやかながら当院の宣伝をすることも悪くないなと思い直し、お引き受けした次第です。実は、この番組の前身に、「朝だ元気だ6時半」(確か)という同じようなYBCのラジオ番組があり、私が山形県立中央病院の時代に話をした経験もあったので、早朝のラジオ番組で、比較的気楽な気持ちで日頃思っていることを皆さんに話が出来るのも悪くは無いな、とも思った次第です。今回は、「リハビリテーション」に焦点を当て、いま正に係わっている「脳卒中リハビリテーション」をテーマに話しをすることにしました。この2年ほどの間、この番組でこれまで話しをされた様々なテーマの一覧を見ても、「リハビリテーション」をテーマにした話題は出ていませんでした。また丁度、これまでの「脳卒中治療ガイドライン2009」が改訂され、「脳卒中治療ガイドライン2015」が本年6月に出版されたばかりであり、それを話題に入れれば、より新鮮味のある話題も加えられると思いました。当初、放送日は8月17日～21日の予定で、7月23日に収録と決まり、前日にバタバタと話の概略を原稿

にし、番組で流す曲をCDに焼き、23日15時に山形のYBCのスタジオに入りました。そこで、突然、ディレクターから、私の放送日が1週間繰り上がり、8月10日～14日になったと伝えられました。どうして?と何気なく聞いたところ、何と、そのつい先日の7月19日鼠ヶ関の海で亡くなられた今野拓先生が、「熱中症」というテーマで私の前の週(8月10日～)に話すことが予定されており、その収録日が、私の前日、すなわち昨日(7月22日)の予定だったとのことでした。しかも、あの7月19日、今野先生の事故を伝えたラジオニュース番組の担当アナウンサーが、私の収録をサポートする女性アナウンサーでした。私が、今野先生が亡くなる丁度1週間前頃に、当院を退院する患者さんの紹介状を、ご家族に請われて今野先生宛に書いていたこともあり、実は親しく言葉を交わしたことは無かった今野先生が、その時思いもかけずとても身近に感じ、先生のご無念のお気持ちが痛いほど胸に響き、改めてご逝去を悼んだ次第です。事故の1週間後の7月26日、私は孫の小学校の海浜学校のサポート役として、鼠ヶ関の同じ海岸にたたずんでいました。波静かな海は子供達の歓声で賑わっており、事故の面影はありませんでした。8月10日朝、私の話がラジオから聞こえてきた時、本当はこの時、今野先生の「熱中症」の話しが、熱く語られたはずなのにと、複雑な気持ちでした。この様な形で図らずも、私と今野先生との繋がりがあったことは、何かの因縁なのかも知れません。改めて、今野拓先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

Introduction

研修医

No.8

庄内地方を訪れて

鶴岡市立荘内病院研修医 西見 由梨花

初めての東北地方に住み始めて、気づけばすでに1年半も経ってしまいました。高校時代までを福岡で、その後は栃木で大学時代6年間を過ごし、東北初体験の地に選んだ鶴岡市はとても刺激的でした。まずは自然。初めて鶴岡に来た4月に湯野浜へ行った時に見た、青い日本海とまだ雪をかぶった白い鳥海山の雪景色。福岡も一応日本海に面してはいますが工業地帯だったのでこんなに広々と青い海が広がった景色はありえませんでしたし、山に雪が積もるなんて景色は山頂にちょっと、よっぽど雪が降った後の数日程度見えるくらいです。この景色が二つ同時にかつ、海からは暖かさを連想する一方でそれに相反する山の雪景色のコラボレーションがとても感動しました。間違いなく私史上最高の景色です。

次は人情。鶴岡で出会った方々は全く知らない土地から来た私に対してとても優しく暖かく接してくださいました。せっかく鶴岡にきたのだからと色々な経験をと山登りや芋煮会、イカ釣りや観光名所めぐりなど連れて行ってくださいました。ガソリンスタンドへ行けば北九州ナンバーの私に無言で観光地図をくださったり、居酒屋に行けば鶴岡の食と酒についてお酒は奢りで数時間語ってくださったり、雪で車が動かなくなって立ち往生した時はお隣さんやお向かいの家の方が雪かきして救出してくださいったり、思い出せば数え切れないほどの感動ストーリーがありました。

大学を卒業してから初めての社会人。期待よりも不安の方が大きかったこの時期を、知り合いのいない土地で今までの甘ったれた学生生活から厳しい社会人をスタートするというのは正直とても辛かったです。しかしこの鶴岡で自然や人々、美味しい食と酒に守られて無事にこの2年間を終えることが出来そうです。あと半年残っていますが、悔いのない半年にしたいと思います。鶴岡の皆さん、本当にありがとうございました。そしてこれからもうぞ宜しくお願いします。



表紙

「アキアカネ」

真家 輿隆

秋風と共に山からアキアカネが降りてくる。その鮮やかな橙紅色は、秋のおとずれ。日本特産種であるこのトンボ、かつて国中どこでも見られたが、近年めっきり少ない。すでに大阪など6府県で、絶滅危惧の生きものとして、レッドリスト入りした。激減の原因に、1990年代後半から田んぼに使われるようになった、浸透性殺虫剤が疑われている。

(2015.8.24, 自宅庭で撮影)

編集後記

例年より2週間も早く、鳥海山の初冠雪が観測されました。今年の冬は、寒く厳しいのでしょうか。今から心配になってしまいます。また、寒暖の差も激しく、体調管理が難しそうです。ひどいスギ花粉症の私ですが、シルバーウィークに訪れた北海道で、アレルギー性鼻炎が発症しました。ヨモギの花粉症かと推測しているのですが、帰ってきてからは全く症状が出ません。一体、何だったのだろうかと悩んでいるところです。

今年度のYBCラジオ「ドクターアドバイスで きょうも元気」も、6名の先生方のご協力のおかげで、無事終了しました。体験記もお読みいただくと、大体の様子がお分かりいただけると思います。毎年、夏の期間に順番がまわってくるのですが、なかなか出演をご承諾いただけず、人選に苦労するところです。番組は、思った以上にかなりの方が聞かれており、放送後に感想をお聞きすることもよくあると聞いています。放送への協力を打ち切っては、というお声もいただきますが、評判の良い番組ということで、もうしばらく存続しそうです。できれば、多くの先生方のご協力を頂き、来年以降も継続して行きたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

佐久間先生からは、また新しいご趣味の執筆を頂きました。図鑑を見るだけではなく、ご自分で描かれるのはびっくりしました。悪筆に加え、絵も下手な私は、とてもうらやましく思います。とてもお忙しい中、時間を作って絵に向き合うのが、気分転換に良いのでしょうね。また、色々な作品をご披露ください。

(福原 晶子)

編集委員：三浦 道治・福原 晶子・三科 武・斎藤 高志・中村 秀幸・伊藤 茂彦

発行所：一般社団法人鶴岡地区医師会 山形県鶴岡市馬場町1-34

TEL 0235-22-0136 FAX 0235-25-0772 E-mail ishikai@tsuruoka-med.jp

ホームページにも掲載しております
[鶴岡地区医師会] 検索URL <http://www.tsuruoka-med.jp>